

三春ダム水源地域ビジョン策定に向けて

活力あふれる地域を目指して、あなたもビジョンづくりに参加してみませんか

平成10年のダム完成以来、三春ダムは洪水調節、かんがいや上水道への利水補給、維持流量の確保など地域の国土保全、国民生活の安定、産業経済の発展のために利用されてきました。

これからはこれらのダムの目的に加えて、ダム及び水源地域の豊かな自然、文化等を活用し地域の振興やダム上流、下流のバランスのとれた発展を図ることにより、21世紀のランドデザインの一部として機能することが期待されます。

三春ダムにおいても、ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図るとともに、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的とした『水源地域ビジョン』の策定を進めています。

水源地域ビジョンは、水源地域の住民、自治体等が策定主体となり、ダム事業者・管理者と共同で下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する水源地域活性化のための行動計画です。

「三春ダム水源地域ビジョン」の策定に向け今後地域の意見を聴く会を幅広く数多く開催する予定です。地域の現況、地域をよくする方策など、住民の方々が日頃感じている考えや意見を寄せていただき、問題点を集約・整理しながら対象地域を掘り、地域の人々が主体となったビジョンにしていきたいと考えています。

県中地域で様々な活動をしている方、地域に関心のある方、ビジョン策定に関わってみたいと思っている方々の積極的な参加をお待ちしています。(管理係まで)

本川前ダム堆積土砂掘削について

平成14年7月から平成15年3月まで、大滝根川本川前ダムの土砂撤去工事を行っています。前ダムは、ダム上流から流入してくる土砂を窒素・リンなどの栄養塩類とともに滞留、沈降させることを目的としているため、定期的に土砂を掘削していかないと前ダム本来の機能が低下してしまいます。そこで、前ダムの機能を回復させることを目的として、本工事を実施し

ているものです。

今回の工事で前ダムから掘削した土砂は約6万 m^3 でこの程度の土砂量は毎年堆積するものであり、定期的に取り除く設計となっています。撤去した土砂の処理方法についての課題が残っているため、三春ダムでは農業用土や建設材料等に活用出来るように色々な実験など検討を進めています。

本川前ダム土砂堆積状況



施工前 平成14年7月29日撮影



本川前ダム土砂掘削後の状況



施工後(約39,000 m^3 掘削後) 平成14年10月23日撮影

シリーズ 「私のふるさと紹介」

【北海道・阿寒町】の巻

管理係 戸村 弘勝

私のふるさとは北海道である。私は小学校3年から中学卒業迄は親の仕事の都合で本州から北海道まで転々としたものである。転校のたびに級友との寂しい別れを体験し、そのたび親を恨んだこともありました。しかし、その体験の中でも、一際輝く思い出となって35年の月日を経て今もなお心に鮮烈に残っている地名があります。私自身今なお、ふるさと！と胸を張って言える場所。その地名は、阿寒町阿寒湖畔という所です。ご存じの方も多いと思いますが・・・そう、あのマリモで有名な阿寒湖なのです。



←釧路市丹頂鶴
自然公園にて
(小学校3年生頃)

当時私は夕張の中学校一年の三学期を終えて、さあこの学校で二年生に進級と思っていた矢先にまたまた、転校という一番聞きたくない言葉を聞かされ愕然としたものでした。洪々次の学校へ、この次の転校先が阿寒湖畔だったので。まず学校へ行って校舎を見てびっくり、なんと校舎が丸い二階建てなのです。後に知ったのですが、この校舎はマリモ校舎というのだそうで結構有名だったようです。そして、生徒の数は前の学校の十分の一、何と学校名が、「阿寒湖小・中学校」まさに小学生と中学生が同じ校舎で勉強しているのです。そして転入クラスへ連れて行かれて同級生の数にまた驚き、中学二年は一クラスのみで、男子15名、女子6名という少数だったのです。

学校の話はこの位にして、本題のふるさとについてですが、まさに、阿寒湖畔という場所に住む事が出来たことは私自身、心の底から幸せに思っています。この町で過ごした4年余りは他の体験がかすんでしまうほどの楽しさと深い思い出となったのです。その要因はまず、自然のすばらしさでした。学校が終わると同級生と湖へ、夏は湖水浴、釣り、山登り、冬は穴釣り、スキー、スケート等々、一見どこでもできる事なんです、どこが違うか釣りを例に挙げてみましょう。まず第一に、つりをする場所です。阿寒湖周辺には大小の湖、沼などがたくさんあるのです。(正確な数は不明)大きい湖は(アイヌ語で)ペンケトー、パンケトー、オンネトー等、又摩周湖なども自転車で行ける範囲にあるのです。まさに釣り天国です。魚の種類や数はすごいものでした。魚釣りに夢中になったのも釣果が釣りの上手、下手に関係なくとにかく釣れるからなのです。ま

た、原生林の中で釣りをしている私たちの十メートルと離れないところでは蝦夷鹿が水を飲み、クマに遭遇する事もあり、クマといえば阿寒湖には当時、東洋一の大きさを誇るヒグマが飼育されていました。ここに書いた事は決して誇張しているものではなくまさに肌で感じ、見たままのことなのです。今だから話せる冒険もありました。まず摩周湖の水面まで下りて湖水浴をしたこと、摩周湖は一般の観光ではいくつかの展望台から湖を見下ろすのが普通ですが私たちは学校の禁止令もものともせず、監視員の目を盗んで湖面まで下りたのです。下りるのは斜面を駆け下りるだけですから二十分もあれば水面まで到着します。まず水面に到着して目を見張るのは水の色です。まさに展望台から見たあの藍色が目の前に広がっているのです。そして水深の違いでわずかに色が違うところもあり、水中では目を疑いたくなる様な透き通った冷たい水でした。一時間も遊ぶと監視員が回ってくる時間ですから帰路に就きます。しかし問題はこの帰路なのです。こんな急斜面を駆け下りたのかと思うほど急な斜面を一時間半もかかって登って行かなければなりません。でも、次の遊びを考えながらみんなで登ればそう苦にもなりませんでした。

この他にも色々な体験をさせてくれたのが、阿寒湖の懐の深い大自然でした。私は今三春ダム管理所で勤務させていただいておりますが、水の大事さはもちろん、怖さや、楽しさを教わったのはこの阿寒湖での経験が大きかったと思います。今も同級生が地元に住み電話で近況などを聞く事があります。町は私たちが育った頃から比べると施設も増え建物も変わったそうです。しかし私の心の中には当時のままのあの町並や湖、原生林が変わらず残っているのです。今、この三春にもさくら湖や様々な水環境があります。水を通して多くの子供たちや人たちが様々な思い出や、水の持つ楽しさを知ってくれればと思います。そのためにも水が輝きをより一層増すように日常の暮らしの中で考えながら実践していきたいと思いを新たに、ふるさとを思うものです。



思い出の阿寒湖畔

『自然』～大滝根川流域の魚～

去る、1月17日（金）自然観察ステーションにおいて「第14回大滝根川流域勉強会」が開催されました。

今回は「大滝根川流域の魚」について行われ、講師として阿武隈川漁業協同組合総代である渡辺幹夫氏、同組合三春方部会長の橋本益義氏、応用地質株式会社応用生態工学研究所の斎藤大氏の3氏を招いて御講話をいただきました。以下に3講師の講話内容の要約を記載いたします。



←講師の斎藤氏、橋本氏、渡辺氏（左より）

渡辺氏からは、上流での生息魚の変化についてということで、生活雑排水や河川改修によってどのように生息魚が変わっていったかの講話がありました。カジカについては（現在では考えられないことですが）50年ほど前の大滝根川では常葉から光大寺の広いエリアで生息していた。というような興味深い話がありました。

橋本氏からは、ダム下流の生息魚及び漁協の活動、その他問題点など幅広い御講話をいただきました。雨が降り、濁流が流れることによって起きる河川の清浄作用の話。また魚のエサとしては河川より貯水池内が高くなってきていることなど、漁協の活動・年間放流実績及び巡回作業等についての色々な話をいただきました。しかし、問題点としての「ブラックバス」による生態系の攪乱、カワウの食欲による餌としての魚類捕獲が頭を痛めさせている、などの話になると会場からは色々な意見や質問が飛び出していました。斎藤氏からは、湛水前後での貯水池内及びダム下流での魚類調査について御講話をいただきました。貯水池内ではブルーギル、ブルックバスといった捕食魚が増えており問題視されていることや、ダム下流でのオイカワやトウヨシノボリの増加傾向などについてお話があり、多数の質問がよせられていました。

最後に今回の出席者は講師を除き、12名でありましたが、今後もどんどん参加者が増加し、より活発な意見交換会になることを祈り、勉強会の報告と致します。

次回の勉強会は、2月13日（木）

テーマは「大滝根川流域の観光について」です。

hotv 一息

僕の闘病日記 by 腰椎ヘルニア編（前編）

水質係 斎藤 秀揮

病院推し【アイアンハンド】→



昨年9月半ばから11月下旬にかけて、腰椎ヘルニアによる入院を強制的に余儀なくされました。皆様に多大なる御迷惑及びご心配をかけたお詫びと反省を込めて闘病生活日記を公開します。なお、ほんの一部フィクションが入りますが質問は受け付けません。

第1章 発病

9月7日土曜午前、自宅でワープロを打っていると、腰に鈍い痛みが走る。元々腰痛持ちのため、いつものことさとおぼたらかしておいた。しかし、日曜日・月曜日の朝になっても痛みは引かず、これは駄目だなと午前中休みをもらい、病院に痛み止めの注射（これが、ぶち痛い）をしてもらい、MRI（患部断層撮影）を行い、結果は土曜日と言われ帰る。管理所に出所後も火曜日までは痛みが引かず、大人しく過ごす。水曜日、痛みがだいぶ治まったことから喜んで昼休みにテニスを行う（今思えば、これが最後のスポーツになるとは・・・）午後になり左太

股に痛みが。大したことはないさと夜飲み歩く、が飲んでいても痛みが引かない。木曜日・朝から太股が痛い・直立して歩くのが困難。これは、やばいかも！！

第2章 入院そして手術

金曜日耐えきれず病院へ。直立できない私を見る＆MRIの結果から医者が一言「入院だな」私が「何とか入院無しで」医者「まともに立てない奴が何できるんだ入院しろ」医者の言葉には迷いは無かったので、諦めつつ翌日から入院。そして検査の毎日（この検査が後の手術より痛い）。結果は「手術しかないな」の一言。目の前真っ暗「マジすか」「医者は冗談言わない」あ～あ。諦めつつ9月19日木曜日手術・全身麻酔って結構気持ちいいかも・・・。手術は無事終了し、個室へ搬入される。当日夜、目覚めた時には痛みもなく、これから始まる苦痛も知らずのほほんとしていた。

（来月号につづく）

ミーちゃん&ハル君の
ちよっとからくち
三春ダム

三春ダムができる前、たくさんの方が(今のさくら湖に)すんでいた、って話を聞いたことがあるけど本当？



伊藤 管理所長

「本当です。今「さくら湖」と呼ばれるダムの貯水池の中には158戸、697人が暮らしてたんだ。その人たちには別な場所に移ってもらってダムは完成したんだ。」



生まれ育った所を出て行くのは大変だったんじゃないかな。僕も水がだんだんあがってきたから仕方なく山の上の方にきたんだよ。

「みんなにダムがこの場所に必要だという事をわかってもらってたんだよ。移転しなければならない人達には生活が再建できるよう、土地や家の補償をしたり、田や畑を営んでいた人には新しい農地をお世話したんだ。」



編成舞地って
いうんだ



こんにちは！ぼくのなまえはハル君。三春ダムのちかくにすんでるよ。ダムについて、わからないことや、知りたいことがいっぱい！だから三春ダムではたらいっている人たちにきいてみようとおもうんだ。



そうかあ、みんな大変だったんだね。みんなに協力してもらってできた三春ダムだけど、ちゃんと役に立ってるのかなあ・・・？



「もちろん！三春ダムにためた水は、飲み水として使われているし、農地に利用する水も確保されたんだ。大海根川や阿武隈川が洪水の時には、ダムから水を流したりもしているよ。それに平成10年と14年にあった大きな洪水では、ダムに水をためて阿武隈川の水位を下げて、洪水の被害を軽くすることもできたんだ。」



なるほど、良くわかったよ。みんなの苦勞におくいるためにも、これから先ず〜っと三春ダムが役立っていけるように、ちゃんと管理してね。

「了解しました。それとハル君、三春ダムのことで疑問があったら答えるから、また来月まで考えてきてね」

じゃあ辛口の質問考えてきまーす！
来月はミーちゃんを連れてくるよ。



ダム資料館からのお知らせ

三春ダム資料館では「阿武隈川上流児童図画コンクール」の入賞作品59点を、2月28日(金)まで展示しています。

2月からの新メニュー

「ホットケーキセット」→
お得なコーヒー券もどうぞ



自然観察ステーションからのお知らせ

2月14日(金)、22日(土)、28日(金)

木星と土星を見よう(星を見る会)

“オリオン大星雲など冬の天体を中心に観察します”

詳しくは、三春町自然観察ステーション
(0247-61-1546)までお問い合わせください。

編集後記

寒い日が続きます。さくら湖の周辺の山々は白くなり、そこに葉のない木々が残り針山のような感じです。お陰様で「さくら湖管理ニュース」も21号になりました。マンネリ化にならないようにと努力していますがこれがなかなか難題であります。今月号から「私のふるさと紹介」と「ミーちゃん&ハル君のちよっとからくち三春ダム」のシリーズを企画しました。これからも相も変わらぬご支援をお願いいたします。



(伊藤)

編集・発行

国土交通省
東北地方整備局
三春ダム管理所

皆様のご意見や情報の提供を

お待ちしております。

〒963-7722 福島県田村郡三春町大字

西方字中ノ内403-4

TEL 0247-62-3145

FAX 0247-62-3170

ホームページアドレス

<http://www.thr.mlit.go.jp/miharu>